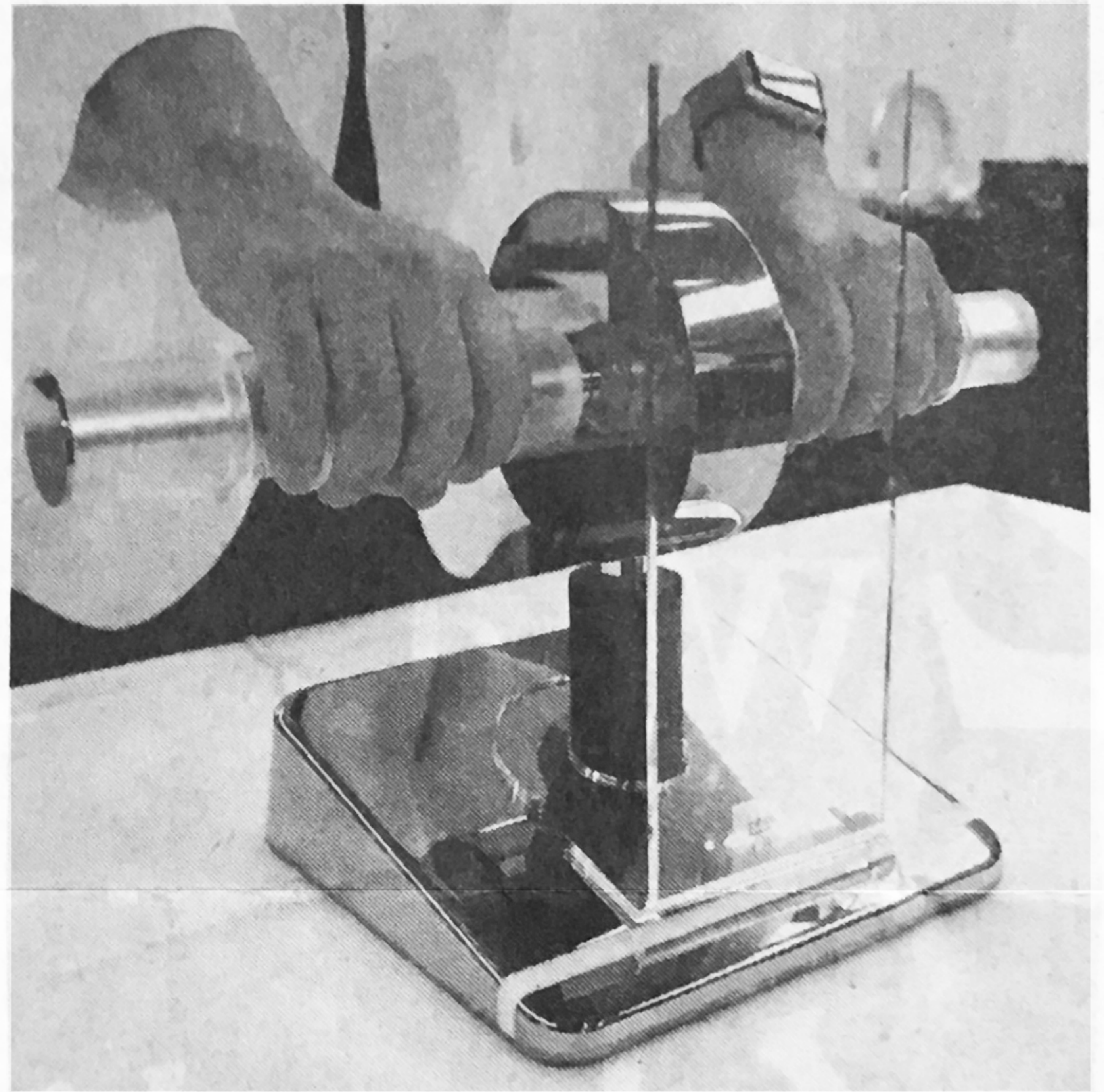


# 両手で握る形状 深紫外線で殺菌

## 阪大が装置原理開発

大阪大学大学院医学  
系研究科の川崎和男特



深紫外線殺菌装置の模型

任教授らの研究グループは、深紫外線を用いた殺菌装置の原理を開発した。手の殺菌に用いるため両手で握れる形状の装置の模型を作

った。握る部分の内部に深紫外線が流れ、表面ににじむわずかな深紫外線により殺菌できる仕組み。握る部分には凹凸をつけて、雑菌

がつきやすい指と指の間の水かきのような部分を殺菌しやすくした。今後、医療機器メーカーなどと協力して深紫外線を実装し商品化を目指す。

波長200ナノメートル（ナノは10億分の1）の深紫外線は殺菌効果がある。ラット36体を用いて傷に照射して実験したところ、早期回復効果があった。

殺菌装置が商品化されれば、手術前の医者の手洗いなどの医療現場や、再生医療での細胞培養時の殺菌、公共施設などでの活用が見込める。